

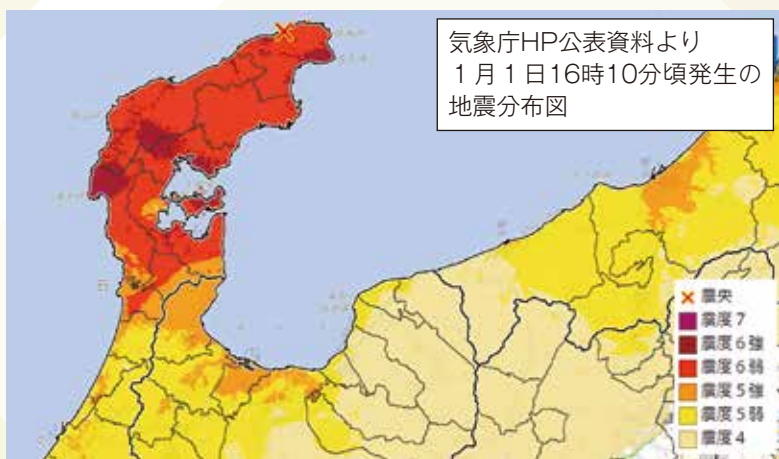
令和6年能登半島地震

石川県を中心に甚大な被害

全国の社協が支援に

◎令和6年能登半島地震

新年の幕開けを国民が祝う令和6年元旦、16時10分頃に石川県能登半島で最大震度7の揺れを観測する地震が発生しました。地震の深さは16キロ、マグニチュード7.6となり、阪神・淡路大震災や熊本地震のマグ



ニチュード7.3を超える規模となりました。

この地震の影響で、石川県輪島市や志賀町で震度7、七尾市や珠洲市、穴水町で震度6強、中能登町と能登町、新潟県長岡市で震度6弱を記録しました。

気象庁は、今回の一連の地震活動を「令和6年能登半島地震」と名付けました。その後も余震が相次いで発生し、震度1以上を観測する地震は2月22日までの間に1,675回発生しています。今回の地震の活動域は能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東―南西に延びる150 km程度の範囲に広がっています。

今回の地震により、1府8県で甚大な被害が発生しています。2月22日現在の内閣府の情報では、人的被害として死者が241人（石川県のみ）、負傷者が1,297人、住家被害では、全壊が9,050棟、半壊が12,820棟、床上・床下浸水が25棟、一部破損が54,362棟と公表されています。その他、輪島

市を中心として大規模な火災が発生したことや、奥能登や中能登の地域では多くの地域で断水が今も続いています。

◎全国の社協が支援に

今回の能登半島地震では、生活福祉資金緊急小口資金の特例貸付や災害ボランティアセンターの運営支援として、全国の社協が石川県内の市町村社協に支援を行いました。本県としても、特例貸付業務の支援で能登町社会福祉協議会へ本会職員2名を派遣したほか、志賀町災害ボランティアセンターの運営支援として、3月末までの期間で本会職員を3名、市町村社協職員を5名派遣し、現在も支援を行っております。

緊急小口の特例貸付については、石川県内のみで、相談件数が延べ1,041件、貸付件数は延べ809件となり、貸付金額の総額としては1億円を超えています（2月27日現在）。

◎石川県内の災害ボランティア

石川県では、石川県庁が所管する「公益財団法人 石川県県民ボランティアセンター」にて災害ボランティアの事前登録・管理を行っており、交通網が整備されていない中能登・奥能登地方の市町について、日々ボランティアバスを運行し、災害ボランティアを派遣しています。

石川県内の災害ボランティア情報については、公益財団法人石川県県民ボランティアセンターが開設する特設サイトより確認いただけます。



◎志賀町の被災状況と

志賀町災害ボランティアセンター

石川県志賀町は、能登半島のほぼ中央に位置し、県内唯一の原発である北陸電力志賀原子力発電所が設置されています（今回の地震による放射能等安全上の問題は発生していないとのこと）。2005年に志賀町及び富来町が合併し、現在の志賀町が発足しました。今回の地震では、志賀町の北側にある富来地区にて多くの被害が発生しています。志賀町の被害状況としては、死者2名、負傷者105名、住家被害（全壊・半壊・一部損壊）6,412棟、床上・

